

家政学会・被服心理学部 夏季セミナー

# 被服と羞恥心

聖心女子大学

菅原健介

羞恥心(自己呈示)という視点から、被服についてどのような研究ができそうかを考えていただくため、研究例を紹介する

①羞恥心の心理学的位置づけ

②研究例1: 肌見せファッションと羞恥心

③研究例2: 下着の心理的効果  
~見えない下着になぜこだわるのか~

# § 1 羞恥心とは何か

Baumeister & Leary(1995)

人間は社会に依存して  
生きる動物



集団所属への生理的欲求



しばしば、集団や社会は個人を  
排斥しようとする



社会(集団)に受け入れられていることを常に確認する必要



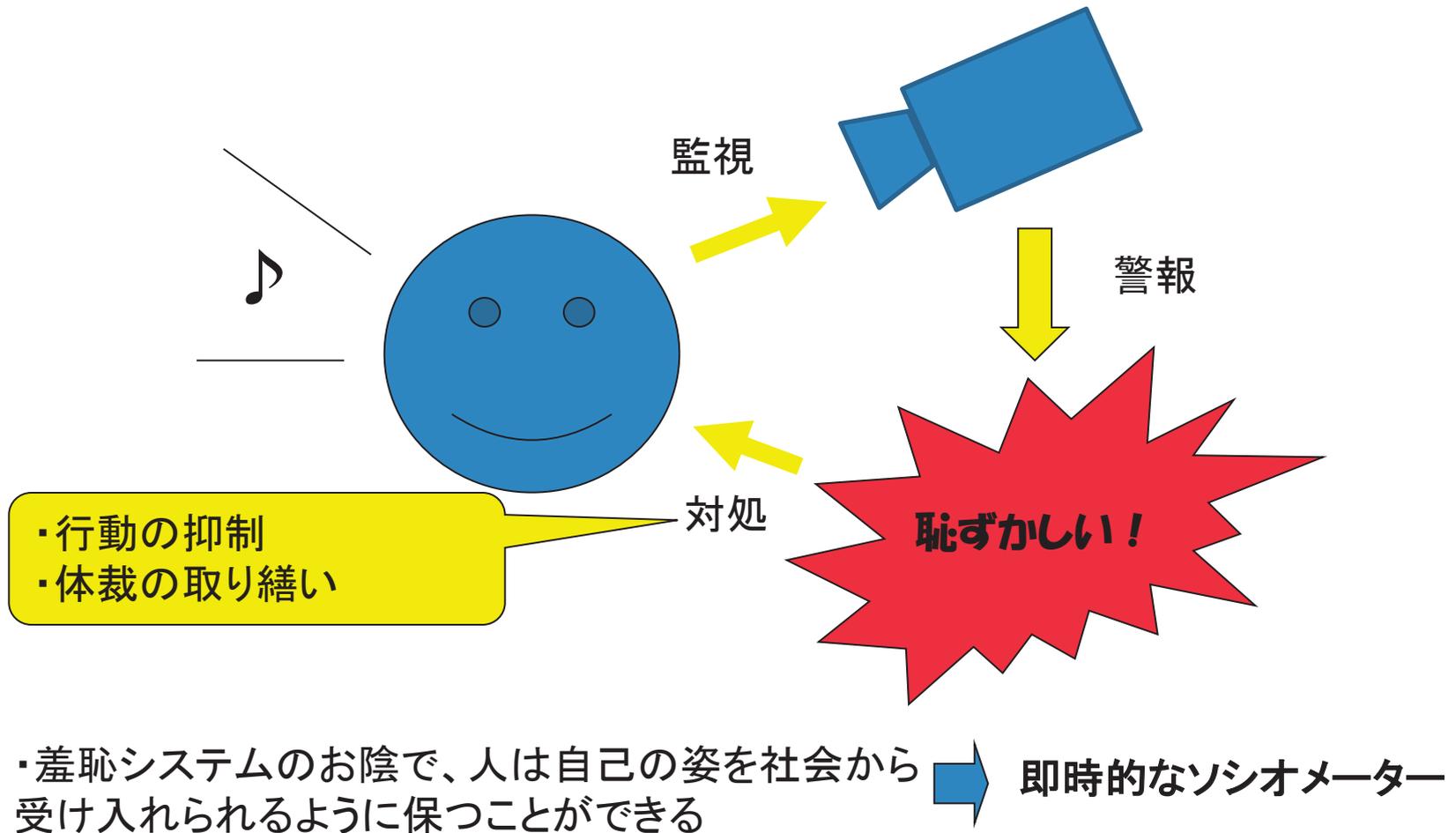
羞恥心

ソシオメーター

自己の社会的危機を感知する心のシステムが進化

●羞恥心:

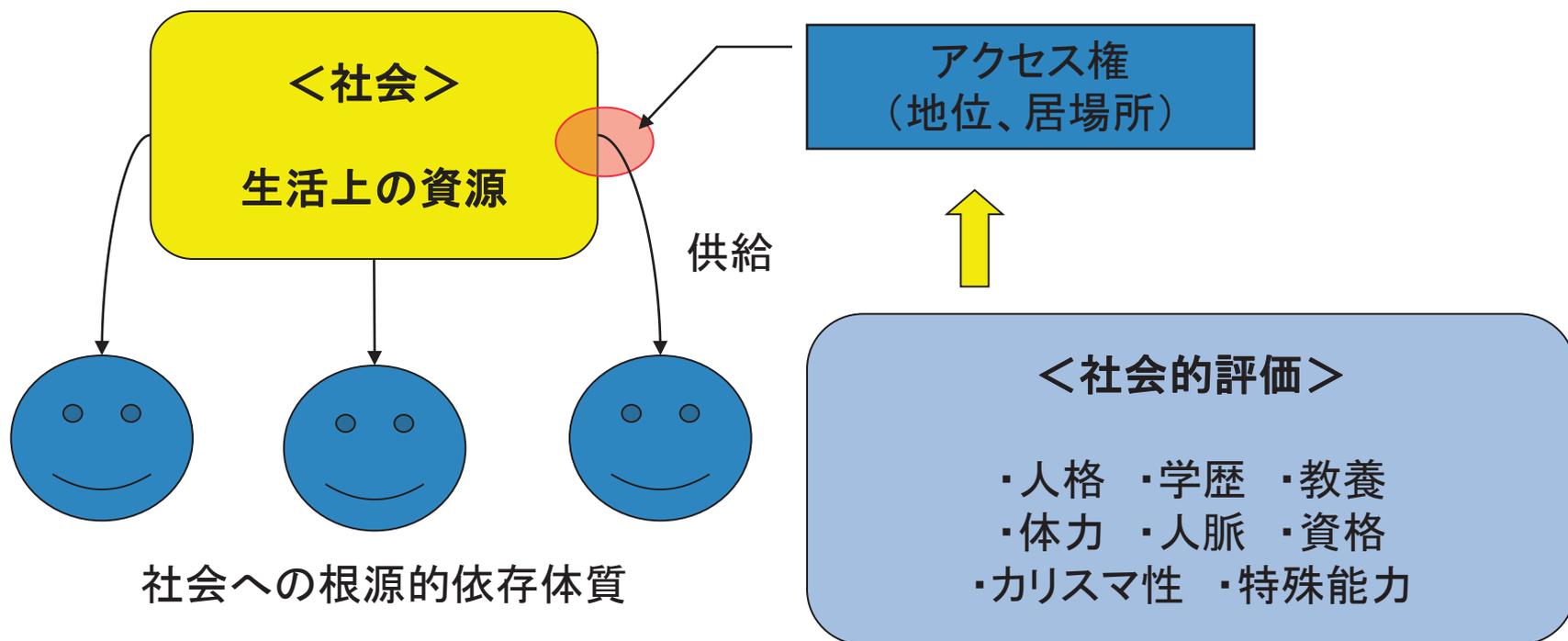
⇒社会的自己の危機を知らせるセキュリティーシステム



・羞恥システムのお陰で、人は自己の姿を社会から受け入れられるように保つことができる

即時的なソシオメーター

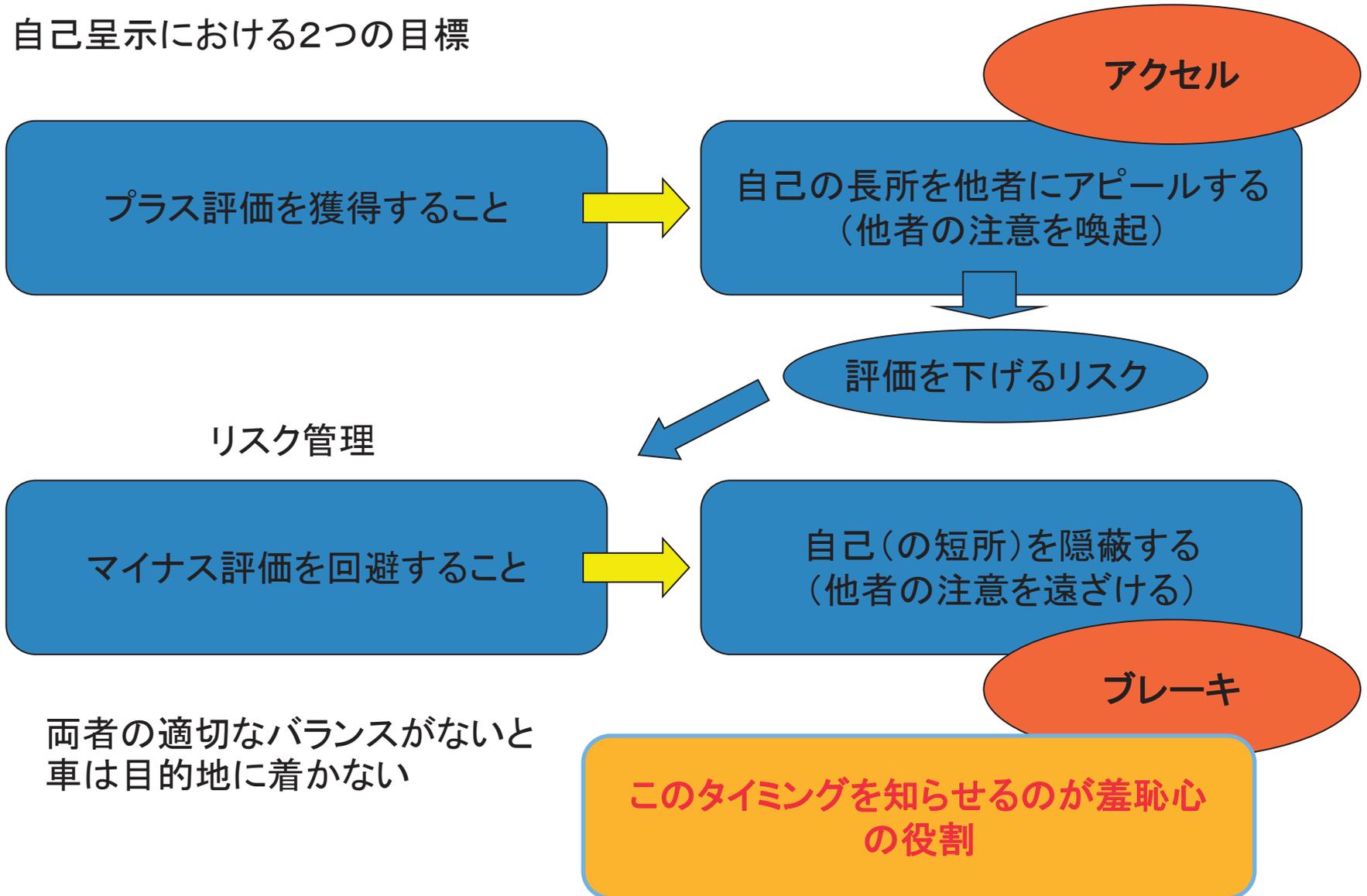
## 自己呈示と羞恥心



一般的に、社会的評価が高いほど、より多くの資源を獲得できる

➡ 自己呈示の必要性

自己呈示における2つの目標

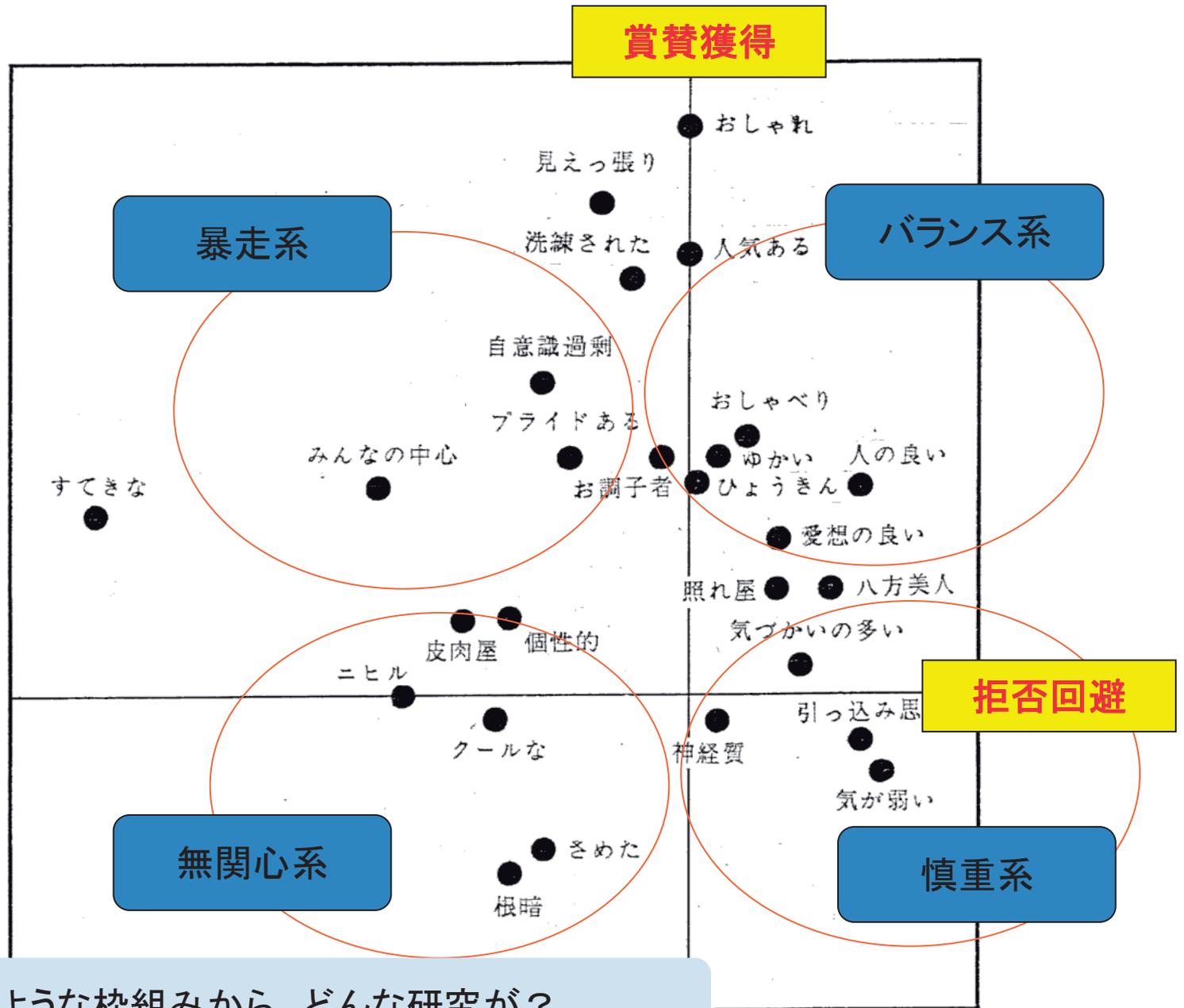


これら2つの欲求の影響と機能を検討するため、欲求の測定尺度を作成

(菅原、1986)

項目	因子1	因子2
みんなの人気者になりたい	.71	
みんなの注目を浴びたい	.77	
人前ではいつも格好よくありたい	.51	
何か気のきいたことを言って人を感心させたい	.49	
人に自分を印象付けたい	.69	
どんな時でも相手の機嫌をそこねたくない		.64
誰からも嫌われたくない		.74
みんなから変な人だと思われたくない		.42
できるだけ敵はつくりたくない		.74

⇒賞賛獲得欲求、拒否回避欲求尺度



このような枠組みから、どんな研究が？

## § 2. 肌見せ系ファッションと羞恥心



➡ 公の場で〇〇をしている人は、なぜ恥ずかしくないのか？

夏の肌見せファッションも

➡ 羞恥心が欠如している？

羞恥心が消えたわけではない



かつての日本人の  
所属集団

地域社会の崩壊



気の合う仲間限定  
のセケン

住む世界の矮小化

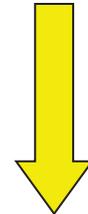


特殊な規範意識  
(座らない方が恥ずかしい)

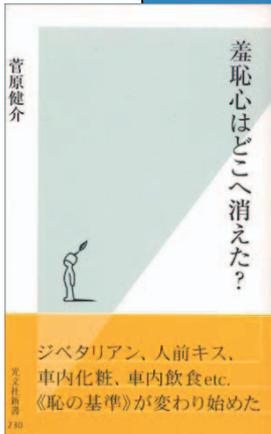


公共の場の人々は  
みんな「タニン」

同調



羞恥心が働かない



もうひとつ興味深いのは...

➡ なぜ、肌見せファッションは恥ずかしいのか？

➡ なぜ、肌の露出は恥じるべきなのか？

“常識”として片づけられそうな現象を  
改めて考える面白さ





## 身体の露出(脱衣)はすべてが恥ずかしいわけではない

➡ 性的刺激管理説に従えば、その露出が“性的”であるかどうか重要

➡ 性目的ではない露出もある ⇒ 恥ずかしくない

Ex. 風呂、海水浴、医療場面

➡ “認知(意味づけ)”が変化すると、たちまち身体は羞恥の対象に

Ex. 露天風呂の雰囲気

Ex. 医療場面での医師の言動

Ex. ヌーディストキャンプの儀礼



羞恥を感じない肌見せファッションの着用者は、

① 肌見せを、“性的”なものだと思っていない可能性 ➡ 認識のギャップ説

② OR 異性を性的に誘惑しようとする動機から ➡ 確信犯説

## <調査1>

調査対象： 首都圏と近畿圏に在住の18歳～59歳までの女性1030名

18歳～24歳 206名

25歳～29歳 206名

30歳～39歳 206名

40歳～49歳 206名

50歳～59歳 206名

調査方法： 2006年6月 モニター調査

## <調査2>

対象者： 東京内の3つの大学、短大に所属する女子学生254名(18歳～24歳)

調査方法： 2006年7月から8月 講義後に配布、回収、個別的に配布、回収

調査内容： ①身体や下着露出に対する羞恥感(14項目)

②肌見せファッションの着用経験

③肌見せファッション観

④肌見せファッションへの社会的評価(の認知)

⑤その他

## 調査1

### 年齢層別、肌見せファッションの経験率(%)

	18-24	25-29	30-39	40-49	50-59
肩だしキャミ ソール	66	67	53	31	19
素肌見える ローライズ	35	29	15	8	2
胸の谷間が見 える服	26	26	21	14	5
胸元が大きく開 いた服	46	41	40	27	16
ベアバック、 ホルターネック	31	23	22	13	11
見せるブラ	16	11	7	4	2
付け替えスト ラップ	44	35	22	18	7

# 下着や身体露出に対する羞恥感の構造

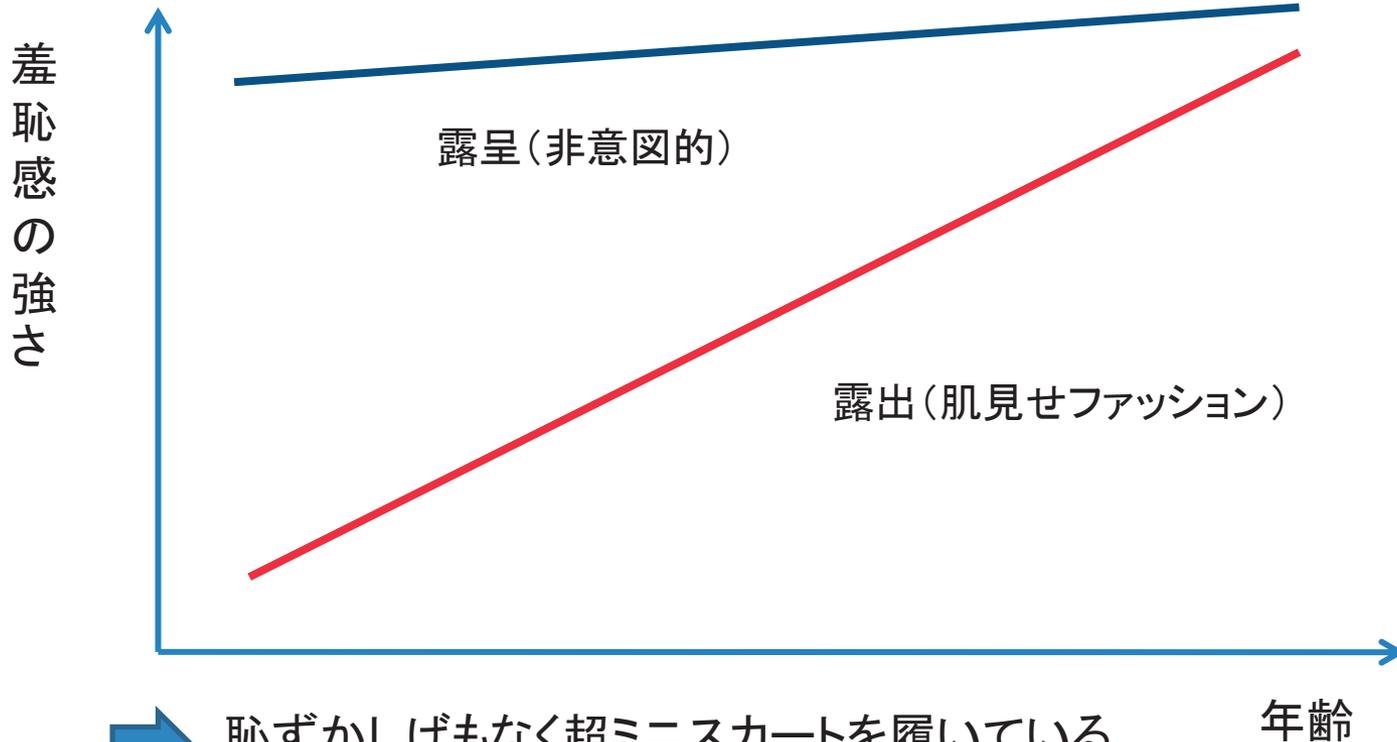
露出系

露呈系

キャミソール	. 85	- . 15
ブラのストラップを付け替えて見せる	. 81	- . 07
へそや肌が見えるローライズ	. 76	- . 01
胸元が広く開いた服	. 72	. 01
ボディラインが強調される服	. 71	. 06
ひざ上のミニスカート	. 66	. 00
下着のラインが段になる	- . 18	. 81
服の上からショーツのラインが見える	- . 07	. 79
バストトップがアウターにひびく	- . 06	. 73
ブラのシルエットや色が透ける	. 03	. 71
ブラのストラップが服の隙間から見える	. 14	. 62
かがんだとき、服の隙間から下着が見える	. 23	. 55

肌見せファッション  
に対する羞恥感

非意図的な  
露呈



➡ 恥ずかしげもなく超ミニスカートを履いている女子高生が、階段ではお尻を隠す理由

➡ 見せる下着：肌見せファッションの流行にともなって外に「露呈」した下着は、「露出」の側に回ることによって恥ずかしさを回避した

付け替えストラップ  
見せパン、見せブラ

## 調査2

### 検討のポイント

・「露出(肌見せファッション)」に関する羞恥感や着用頻度は、どのような要因によって規定されるのか？

①肌見せファッションの「性的刺激性」の認知の影響

➡ 「性的刺激性」を認知している程、恥ずかしい

②「非性的」な意味づけ(ファッション、クールビズ)の影響

➡ 「非性的」な意味づけをしている程、恥ずかしくない

③「性的誘惑」のための道具性の認知の影響

- ・異性にセクシーさをアピールできる
- ・異性の好意や関心を高めることができる
- ・性的な魅力が高まる

➡ 「性的誘惑」の道具として意味づけをしている程、恥ずかしくなく、かつ、着用頻度が高い

なぜ、こんなものはやるのか？

➡ 認識のギャップ説

➡ 確信犯説

変に異性を刺激してしまいそう  
変質者に狙われる  
異性からジロジロ見られそう

世の中の秩序に反する  
社会の風紀が乱れる  
性的な道徳観念がない

性的刺激性

規範欠如

ファッション性

センスよい

羞恥感

着用度

クールビズ

ファッション観

性的誘惑

社会的評価の予期

涼しそう  
暑さ対策  
夏らしくてよい

おしゃれだと思われる  
かっこいいと思われる  
センスがいいと思われる

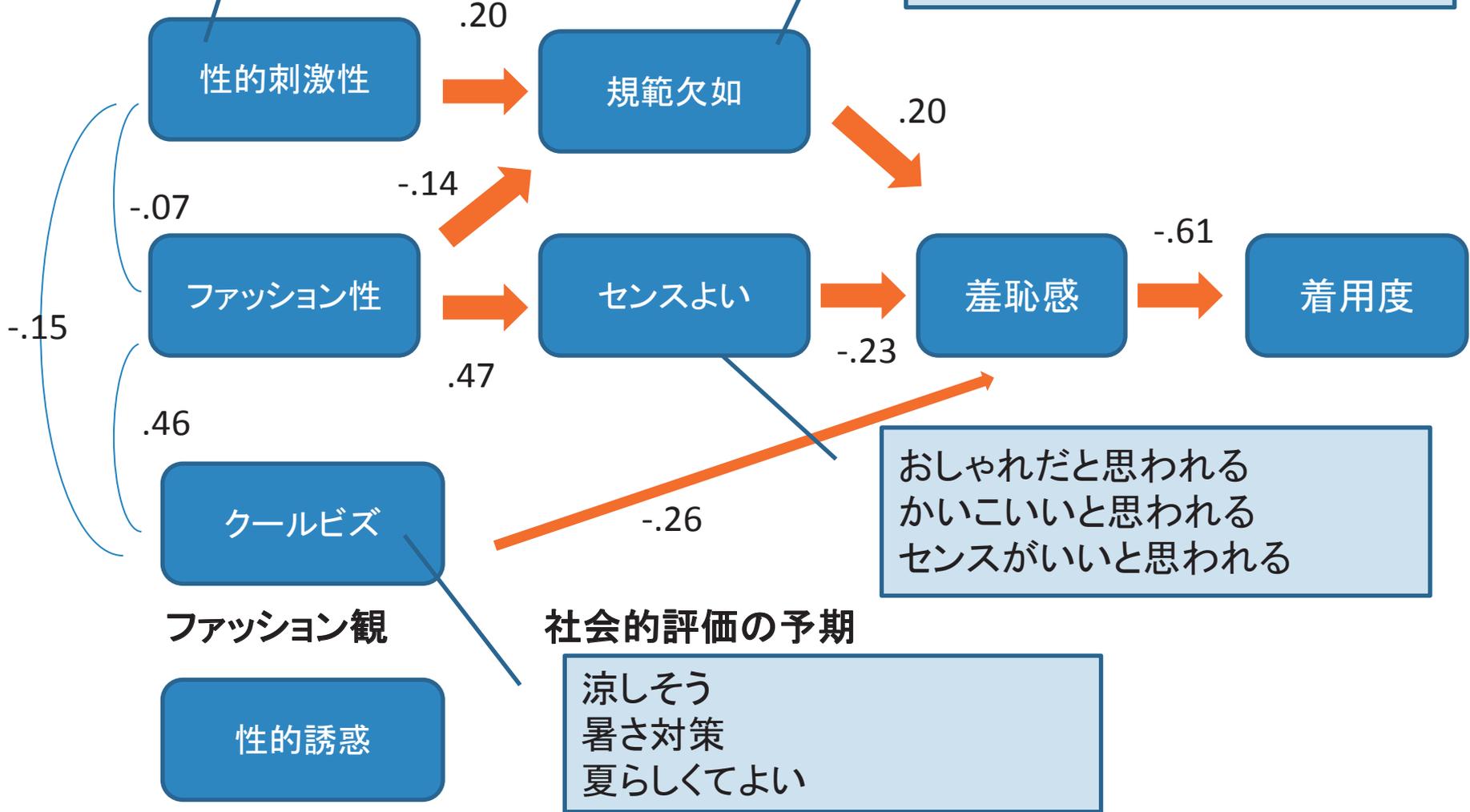


図 着用度に及ぼす羞恥感と社会的評価、ファッション観

①性的刺激管理説が示す通り、肌見せファッションに性的刺激性を認知するほど、羞恥感が高く、着用が抑制される。

②一方、肌見せファッションに、「おしゃれ」や「クールビズ」といった非性的目意味づけをしているほど、羞恥感は低く、着用頻度が促進される。

③肌見せファッションを「性的誘惑」の道具として意味づけていることと、羞恥感や着用頻度との関係性は見られず、同ファッションの流行は性倫理上の問題とは考えられない。



中高年層を中心に批判的な評価が多いにもかかわらず、肌見せファッションを着用するのは、冒頭で述べた地域社会の崩壊に伴う所属集団の矮小化の問題が関与しているかもしれない。

## § 3. 見えない下着になぜこだわるのか？

下着のデザイン性への関心の高まり

- ➡ 補正性、つけ心地などの物理的“機能”を重視してきた企業にとっては意外性
- ➡ 単なる身体補正や肌感覚を超えた情緒的な満足感を求めているのか？
- ➡ 心理学的な視点からのアプローチの必要性

自己呈示研究の立場からも、見えない被服になぜ、オシャレ感覚を求めるのかというテーマは興味深い。

## 調査： 下着の心理的効果の実態と構造

### 方法

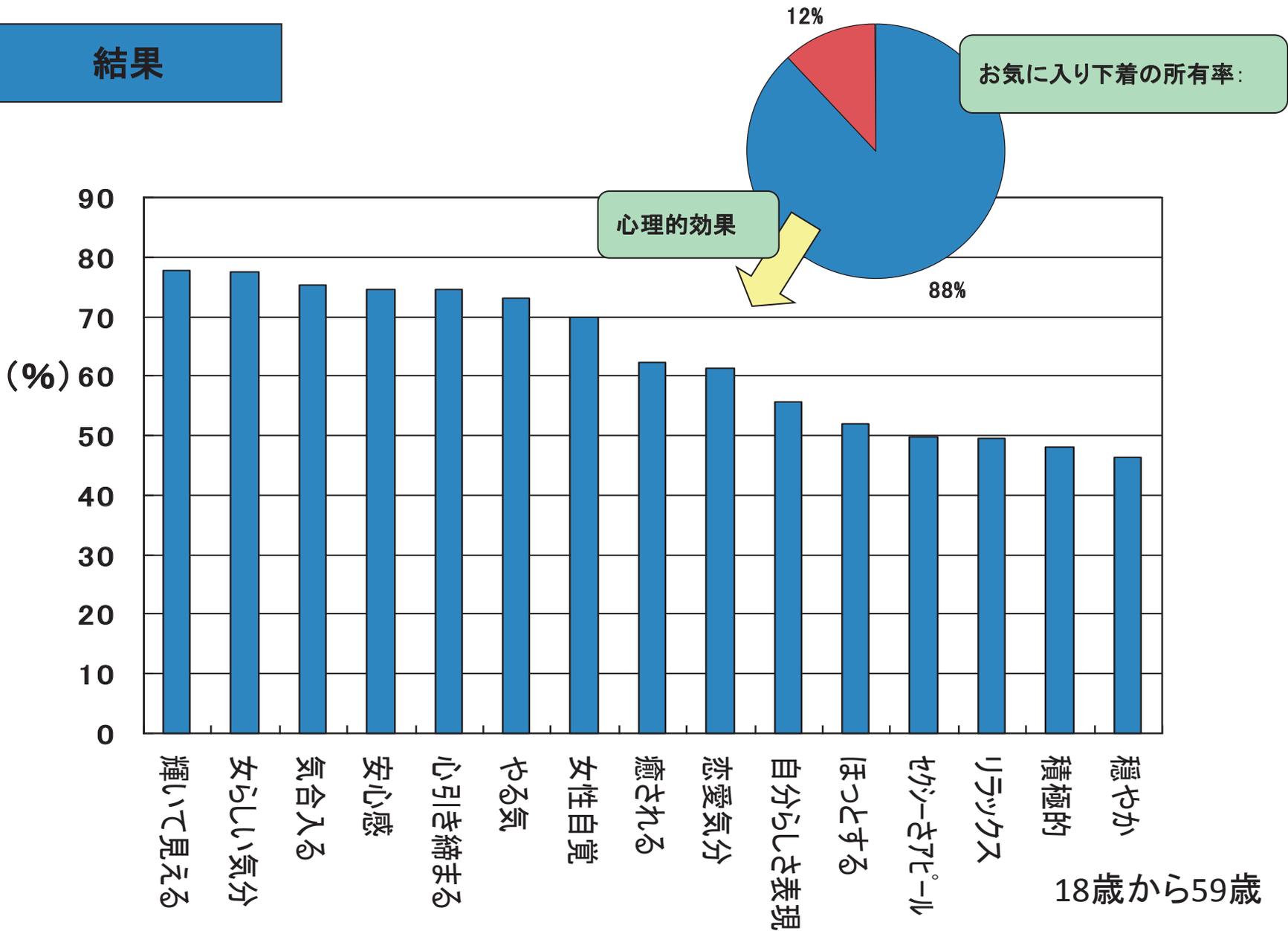
**対象者:** 首都圏、ならびに近畿圏に在住の18歳から59歳までの女性1030名  
首都圏、ならびに近畿圏に在住の25歳から39歳までの女性1236名

#### 質問内容:

特別な時や大切なシーンで身に着ける下着の中で最も気に入っているものを思い浮かべてもらい、以下の設問への回答を求めた。

- 1) お気に入りのインナーの有無
- 2) お気に入りのインナーの種類
- 3) お気に入りのインナーのイメージ
- 4) インナーを購入する際に重視するポイント
- 5) お気に入りのインナーの着用時に気になる他者の目
- 6) お気に入りのインナー着用時の気分(心理的効用感)
- 7) その他

# 結果



## 3つの心理的効果

第1因子:アピール

パートナー・恋人が喜んでくれる、異性にセクシーさアピール

第2因子:安心感

ほっとする、リラックスできる

第3因子:気合

気合が入る、心が引き締まる

## お気に入りをつけたい場面と期待する効果

正式なパーティー  
高級レストラン  
高級ブランド店

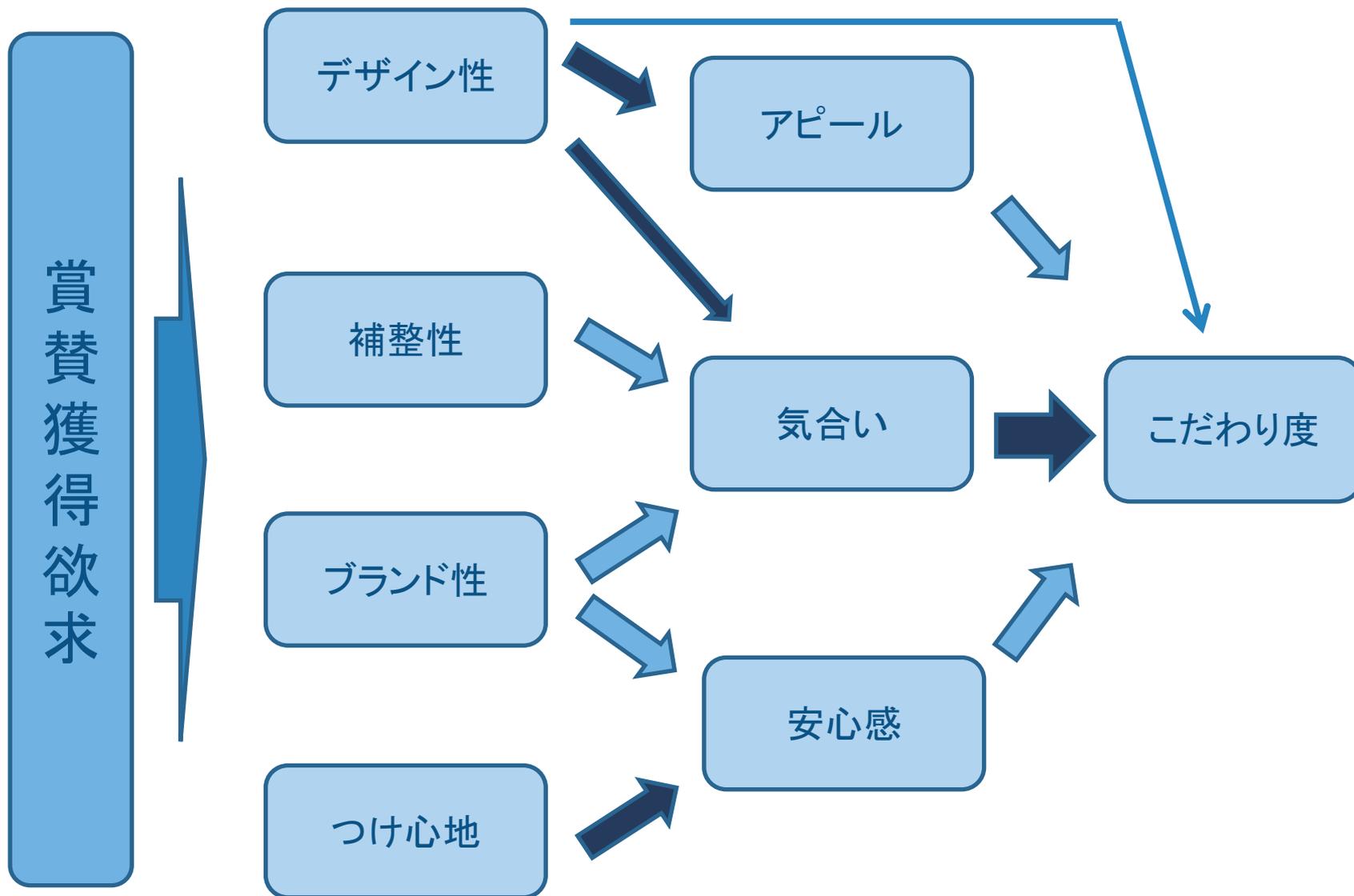
大切な試験  
面接  
プレゼン、スピーチ

デート  
旅行

落ち込んだ時  
ついてない時

	ハレの場	面接・プレゼン	異性	ストレス
アピール	●		●	
安心感		●		●
気合	●	●	●	●

# 心理的効果に影響する要因



・下着へのこだわりの過程は、他者から好意や高い評価を得ようとする自己呈示の「アクセル」要因と強く結びついている。



見えない下着なのになぜ？

①「デザイン」によって「アピール」という、下着の直接的な自己呈示効果が認められるが、これは下着のアウトー的使用に限定される。

②下着の間接的な効果として、様々な特性や機能が「気合」や「安心」という心理的影響を作り出し、リスクを伴う自己顕示的な行動への心理的支えとなっていることが考えられる。

効果的な自己呈示のためには単に、自己の外見をコントロールすることによって得られる直接的過程だけでなく、自己アピールのリスクに立ち向かう動機維持のための自己効力感や集中力などを高める間接的過程が必要である。

後者を引き出すため、女性たちは、見えない下着にも、こだわりを持ち、いわば、自分自身に「魔法」かけている？

女性の心理と下着の研究サイト  
**COCOROS**  
—ココロス 心理学とワコールが出会う、考える、語り合う—

➤ トップ    ➤ ココロスについて    ➤ 研究の扉    ➤ 資料集    ➤ ココロの視線    ➤ 言の葉巡り    ➤ 歴史探訪

資料集

研究の扉

女性の『心』研究を巡るミニ講座 **FILE.06**

▶ 女性は、誰のために『お気に入りの下着』を着用しているのでしょうか？

女性のこころにもたらす3つの心理的効果と関連づけながら、こころの中で誰を意識しているのかを探ります。

▶ FILE.01～FILE.06へ

お知らせ

2010.07.09 **117**

研究の扉

FILE.06 女性は、誰のために『お気に入りの下着』を着用しているのでしょうか？

<http://www.cocoros.jp/research/>

ワコール ココロス